

治水対策案について、ケース1（サンルダム＋河川改修）は、河道掘削が少ないこと、短期間での施設完成等では最良と思われ、事業費に比べては今後のダム構造の検討等（遡上性魚類の保全対策洪水規模の設定）により大きく拡大することが懸念される。ケース2・3（遊水池＋河川改修）は整備目標流量の設定が過去データ（戦後最大級）によるものであるため、昨今の異常気象が多発している現状から不安が残る。又、河道掘削が多いため、メンテナンスス比重が大となり、長期的には事業費の拡大となると思われる。

1. 意見

治水対策案のサニルダム+河川改修により早期整備をして頂きたい。但しサニルダムの設置計画に肉しては地元住民の意見を重視し、理解を得たうえでの着手が必要と思ひます。

## 1. 意見

### 治水対策案について

ケース1 (中・小規模河川改修) は、河道掘削が少な、事、短期間での施設完成等では最良と思われ、事業費にについては、今後の洪水防止の検討等 (河川工事の安全対策、洪水規模の認定) により大きく拡大する事が懸念される。

ケース2・3 (遊水池 + 河川改修) は、整備目標流量の認定が過去データによるものであるが、昨今の異常気象が頻りに起る現状、不安がある。又、河道掘削が少、メンテナンスの比重が、本と比べ、長期的には事業費の増大となると思われる。